

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000277	事業の開始年月日	平成22年4月1日	
		指定年月日	平成22年4月1日	
法人名	株式会社コムロード			
事業所名	もえぎケアセンター矢部			
所在地	(〒244-0002) 横浜市戸塚区矢部町1252-6			
サービス種別	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
定員等		宿泊定員	5 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>《サービス》通り、宿泊、訪問を柔軟に組み合わせ切れ目ないサービス提供を心掛けています。一人暮らしの方々も訪問・食事提供・通院送迎など利用者のさまざまな状況に合わせて可能な限り住み慣れた自宅、地域で暮らし続ける事が出来るよう支援しています。《設備》日当たりの良い広いリビングを中心としてゆったりと過ごすことができる設計となっています。広いトイレを3か所配し、お風呂上がりやゆったり過ごせる広い更衣室も特徴です。室内では心地よい音楽を流したりゆったり過ごせる工夫をしています。《行事》各担当が毎月の行事を企画し楽しいレクリエーションに参加いただいています。1年ごとにアルバムを作成しお一人ずつにお渡ししています。《福祉タウン》公園に面し「戸塚区障害者支援センター」「認知症高齢者グループホーム」「視覚障害者グループホーム」そして「もえぎケアセンター」が軒を並べるエリアに位置し合同の福祉祭りが催されるなどベストな地域(環境)にあります。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年2月20日	評価機関 評価決定日	平成27年4月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>＜事業所の優れている点＞ ◇矢部福祉祭りでの地域交流 ・事業所周辺に高齢者グループホーム、視覚障害者グループホーム、戸塚区生活支援センターがあり、毎年合同で事業所前の公園で「矢部福祉祭り」を開催している。地域包括支援センターが広報したり戸塚区の協力でマスコットキャラクターウナシーの着ぐるみや多数の地域住民が参加し、事業所や利用者への理解を深め、日常的なつながりを広げている。 ◇手作りの食事の提供 ・献立は利用者の好みや希望に配慮して旬の食材を取り入れ、職員が交代で献立作成と調理をし、彩や盛り付けを工夫し提供している。誕生日には特別メニューを考えたり、利用者の希望で次の日のメニューを柔軟に変更している。 ・利用者に合わせて食事の量を加減し、食材を小さく切ったり誤嚥しやすい人にはとろみをつけるなど、完食できるように支援している。 ＜事業所が工夫している点＞ ◇利用者一人一人の課題分析を丁寧に実施したケアプランの作成 ・利用者毎に個別担当職員を決め、日々の生活状況を一人一人丁寧にモニタリングして経過記録を作成し、利用者個々の課題を抽出してアセスメント表にまとめられている。その結果、利用者本位のサービス介護計画書作成につながっている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	もえぎケアセンター矢部

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を理解し理念をスタッフ一同共に共有して、地域の方に広く知っていただけるよう努力している。	・法人の基本理念を事務室に掲示するほか新任研修や会議、日常的な話し合いで、周知している。 ・職員は「利用者との一体感ある介護サービスの創造」の実現をめざし、利用者との日々の生活の中で信頼してもらえるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣4施設・区役所・地域ケアプラザ合同で「矢部福祉まつり」を毎年開催し多くの地域住民との交流を図っており又近隣4施設で合同避難訓練を毎年行っている。町内会にも加入し公園清掃等に参加している。	・町内会に加入し管理者が会議に出席して地元の情報を得、利用者も住民と公園清掃を行ったり、自治会館のお茶会に招待されたりしている。 ・隣接する3福祉事業所と合同で矢部福祉まつりを開催し、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様のご家族や地域の方からの相談や電話問い合わせにはには認知症のケア方法のアドバイス、介護へのアドバイスなどを親身になって支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し会議で出した意見はその場で熱心に話し合ったり次回までに報告をまとめて日頃のサービス向上に努めている。	・会議は2か月ごとに住民代表、地域包括支援センター職員、家族の参加で開催し、事業所の活動報告や地域の情報交換などを行っている。 ・会議で施設の地域への周知が話題となり、パンフレットを地域ケアプラザに置いて住民に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小規模多機能連絡会への参加等により市・区の担当職員との密接な連携を図っている。地域包括支援センターには利用者の状態により報告や相談をしている。	・戸塚区に利用者の介護保険の更新申請代行で行く際に、事業所の近況を報告し、連携を図っている。 ・地域包括支援センターとは日常的に連携し、利用者の相談をしたり助言を得ている。矢部福祉祭りに戸塚区や地域ケアプラザの参加があり、協力関係ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関は施錠せずフロアは開放し自由に移動できるようにしている。利用者の意志を尊重して行動を見守っており身体拘束はしない介護をスタッフ全員で実践している。	・身体拘束排除宣言を事務室に掲示し、マニュアル「拘束ゼロの手引き」で拘束のないケアを学び、実践している。 ・玄関は日中は開錠し、外出願望がある利用者を見守ったり、一緒に出かけるなどの配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあってはならないこととスタッフ全員で認識しており入浴時やトイレ介助の際、身体状況の観察に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現在必要とする利用者はいないが今後必要とされる方の説明できるよう学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に説明し体験利用していただく等納得いただいてから締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表の意見や要望、連絡帳等に記載された内容は運営に反映させ介護サービスを実践している。	・家族の意見や要望は、送迎時や連絡帳で日常的に聞くほか、運営推進会議でも積極的に聞き取っている。 ・利用者の要望は、日常会話の中で聞き、「リハビリをしたい、花見に行きたい」などの要望に応えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月月初めに事業所内定期ミーティング時に意見や提案する機会がある。また毎週の本社執行会議で管理者が経営者に直接意見を伝えることができる。	・毎月のミーティングや朝・夕のミーティング時に、職員から意見や提案を聞き、毎週、本社での会議で報告・検討し運営に反映している。 ・職員の提案でキャスター付きシャワーチェアを導入するなど、職員の働きやすさにも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力・勤務状況(努力・実績等)の査定により 昇給・賞与への反映、個人面談による動機付け ・準社員(制度は既設)、正社員登用の積極化等を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最重要課題と位置づけており ①社内(社長)研修を「正社員研修」「介護スタッフ研修」として毎年定期的実施 ②社外研修、資格取得奨励制度を設定 ③OJT：管理者(執行会議)、職員(スタッフミーティング)他の仕組みがある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市の小規模多機能事業者連絡会や複数事業者連携事業の研修に、管理者・スタッフが参加し同業者と交流や意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いをしっかりと聞き適切に対処することによって安心感につながり信頼関係ができる第一歩と考えて努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の時点で家族が困っていることや必要とされていることをしっかりと聞き把握し、ご家族からはきちんとした評価や信頼をしていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が「その時」必要としているサービスを見極め他のサービスも含めるなど臨機応変に最適なサービスで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もえぎの理念・指針に「ご利用者と一体感ある介護サービスを創造する」と掲げてあり、日常的にレクリエーションや季節ごとの行事などをご利用者と共に楽しみ、時に教えられ支えあう時間を過ごしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との信頼関係を大切にしている。御家族の思いを支えられるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	アンケート調査をして要望のある方には馴染みの場所に出向く支援などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回利用者向けに「馴染みの関係支援アンケート」を実施し、行ってみたい場所や会ってみたい友人知人などの情報を収集している。 ・思い出の場所の江ノ島に行きたいとの希望がでたのがきっかけになり、ほかの利用者も一緒に出かけ、名物の外食をして楽しんだ。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方との関係も大切にしつつ、孤立することなく誰とでも話ができ関わりを持てるような環境づくりをすべく努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で連絡をとったり面会に行くなど関係が終わらないように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や家族の思いを把握・考慮し、それに沿った支援をするよう心がけている。	・利用者の思いや意向は、日常や送迎時の車中での会話やしぐさなどを観察し、また、家族からも聞き取って、把握に努めている。 ・職員が把握した情報はミーティングで話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時のアセスメントや家族の話、さらにフェイスシートなどからこれまでの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族との話により情報交換を重ねながら把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人経過記録に日々の変化や気づいたことを記入し、より良い介護計画を作成している。	・利用者毎の個別担当職員が日々モニタリングした結果を経過記録に記入し、アセスメント表にまとめ、月例カンファレンスで検討し、サービス介護計画書を作成している。計画には利用者と家族の希望を入れ、6か月毎、変化時はその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を毎月のミーティングや日々のミーティングでスタッフ同士で話し合い情報を交換・共有・改善し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の年齢、生活や生活環境の変化に応じて洗濯・買い物・食事作り・通院送迎等状況に応じたサービスなど柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ民生委員に関わってもらい生活を支えている。近隣の方には普段のあいさつや行事にお誘いしたり交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に受診できるよう通院送迎など支援している。また提携医にも家族と相談の上受診できるよう支援している。提携医では発熱など急変時に受診できる体制がある。	・利用者個々のかかりつけ医に家族付き添いで受診している。家族が不都合の場合や独居者には職員が通院に付き添い、状況を説明している。 ・受診後に家族から報告を受けて職員間で共有し、提携医との連携体制も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での変化観察や入浴時等の身体観察を行い、変化があれば看護ノートに記入し情報を共有するとともに看護職員に伝え相談しながら手当や受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の本人や家族の不安や心配を和らげ早期退院に向け主治医やソーシャルワーカーと話し合うなど支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師・家族と密接に連携する方針を家族に伝えている。現在ターミナルケアを医師・看護師・家族と共に実践しているケースがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に「看取り介護の指針」により事業所の方針を説明している。 ・重度化した際には同意書を交わし、家族と話し合っ意向を聞き、訪問診療や訪問介護と連携しながら、通いでの入浴支援や訪問介護で支援している。 	重度化した場合の職員向け研修が最近数年間実施されていません。新人職員への周知のためにも再研修の実施が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署と連携し講習や訓練(AEDの使い方、心臓マッサージなど)を定期的に行い落ち着いて対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し夜間想定避難訓練を近隣の協力も得て毎年行っている。近隣4施設合同で地震想定避難訓練を毎年行っており安全に素早い避難の体制に地域で取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は、5月に隣接3福祉事業所と合同で地震想定訓練を実施し利用者も事業所前の公園まで避難した。2月に消防署と連携して夜間想定訓練や消火器訓練を行った。 ・3日分の非常食と水、ブルーシートやティッシュを備蓄している。 	災害に備えて、近隣施設との連携はありますが、近隣住民に対しても協力を得る工夫が望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格・意志を尊重し介護・声かけを行いながら信頼関係を築いている。ノーマライゼーションの理念に基づく介護を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を人生の先輩として敬意を払い丁寧語での対応に努めている。 ・浴室にはプライバシーに配慮して2か所カーテンを取り付け、トイレ使用時はさりげなく見守っている。 ・プライバシーに配慮したケアが実践されているか職員間で確認し合っている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションをとり、ご本人の思いや希望を自由に表現してもらいそれに沿ってサポートしながら自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースに合わせて日々納得できる生活を過ごすことができるよう支援している。ADLの向上を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣をさりげなく整容し、入浴後の整髪・ひげ剃り・爪切りなどのお手伝いをしている。定期的に美容師に来てもらい希望される方には散髪を行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや希望も考慮し旬の食材や季節のメニューを取り入れ楽しんで頂いている。食事中も和やかに会話しながらゆっくと召し上がっていただいている。下準備や片づけなどができる方には手伝っていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立は、利用者の好みや希望に配慮し、旬の食材や誕生日メニューを取り入れて1か月分を職員が交代で作成し、彩や盛り付けを工夫して順番で調理している。 ・利用者はできる範囲で下膳やテーブル拭きを行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏った栄養摂取とならないようバランスを考えたメニュー作りをし一人ひとりの体調も考慮して摂取量を決めている。水分は一定量摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。自分でできる方は見守り、できない方は介助して口腔内の清潔には十分気をつけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方は多いが、時間での声掛けや排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行い、常に清潔を保つよう努めている。自立の方もさりげなく外で見守りその日の状態を把握するようにしている。	・排泄チェック表や、水分摂取量、個々のリズム、時間を見ながら声かけをし、全員トイレでの排泄を維持できるように支援している。 ・職員間の連携を密にし、利用者の表情、仕草を察知した職員がトイレ誘導し、失敗回避につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、バランス、水分量などできる限りの予防に取り組んでいる。ご家族からの情報やデイサービス時の排便状況などを共有し把握するよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて湯温・湯量も調整し快適に感じて頂けるよう努めている。季節を感じて頂けるように菖蒲湯、ゆず湯を楽しんで頂いている。ゆっくり入りたい方には順番の工夫やプライバシーへの配慮もしている。	・入浴は一日おきにできるように対応し、入浴を好まない人には席を立った時のタイミングを見逃さず声掛け誘導をしている。 ・浴室内にソファがあり、ゆっくり着替えができ、カーテンを取り付けてプライバシーに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの習慣をスタッフ全員が把握し安眠・休息しやすい環境を整えている。安心していただけるよう状況に応じた声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を一冊のファイルにまとめ服薬内容の把握に努めている。病状や服薬内容の変化は常に家族と確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの生活歴や趣味を把握しており、お手伝いをお願いしたりレクリエーションの参加はもとより、声を出して進行の役割を持っていただくなどを工夫し気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣やお花見など季節の外出行事を実施したり夏祭りなど地域の人々と交流が持てる場に出かけている。また本人の希望により散歩やドライブを楽しんでいただける支援をしている。本人の希望で送迎車に乗らずスタッフと徒歩で通所される支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する公園や買い物を兼ねて近隣コンビニへ散歩に出かけている。 ・徒歩で通所希望の利用者の付添支援をしたり、希望に応じて日程変更し、富士山を見に行くこともある。 ・紅葉狩りや初詣、小菅ヶ谷公園に出かけ、花見には弁当を持参して楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が支援しているため現在は希望はないが外出でお金を使う場面では支払をさりげなく見守り困らないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方は家族の支援で行っているが独居の方や家族が忙しい場合は必要事項を含めポストへの投函などやり取りができる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光・音・におい・気温には常に気をつけている。室温は利用者の衣類も考慮した上で設定している。採光はブラインドやカーテンで調整している。季節に合わせて飾り付けや、歌・ゲームで四季を感じていただき居心地良い環境づくりを心掛けている。	・リビングは陽光が差し込み、温湿度も適宜管理している。 ・ソファやテーブルが配置され、好きな所でくつろげるようになっている。壁には利用者手作りの雛飾りと和室には雛壇が飾られ、季節を感じる装飾となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングに4か所のダイニングセットを置きソファコーナーを中央と窓側に2か所設け部屋中央にはベンチがあり、見守りができながら自分の好きな環境にいられる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	宿泊者の生活スタイルに合った居室・寝具を選んでもらっている。心地よさを感じてもらえるよう照明の明るさの調整や飾り付で居心地よく過ごせる工夫をしている。夜間に起きる習慣のある利用者は夜勤職員が見守りできるよう配慮している。	・居室はエアコン、ベッドなどが整備され、泊る際のパジャマ類は本人専用のロッカーに保管されている。 ・泊りの部屋は、洋室、畳の和室などがあり、利用者の好みで選べるようになっており、使い慣れたものの持ち込みはできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のための手すりを設置、また矢印や案内板で「トイレ」「浴室」の表示をし利用場所や部屋を分かりやすくすることによりご自身の移動をサポートしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター矢部

作成日 平成27年3月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に向けた研修が少ない	研修により実践に向け支援に取り組んでいく	定期的に全職員が研修に参加できる体制をつくる	12か月
2	13	近隣住民と協力しながら避難訓練を行う	地域の方々とも連携し更に安全な体制づくりに取り組む	近隣4施設合同避難訓練実施時に町内会の方や地域ケアプラザの方に参加していただく	12か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。